

生活習慣病の守護神「総合診療」

愛港園診療所院長
木戸友幸

本日よく出る言葉の意味

- ・ プライマリ・ケア
- ・ 家庭医、家庭医療
- ・ 総合診療
- ・ これらはほぼ同じ意味で使われており、その時代背景で名を変えている
- ・ その意味はこの講義終了後には、完璧に理解できます

生活習慣病って何でしょうか？

- ・ 食事、嗜好、運動などの生活習慣から引き起こされる疾患
- ・ 高血圧、糖尿病、脂質異常症が主なもので、癌までを含める場合もある
- ・ したがって、多くの専門領域にまたがっている

生活習慣病患者の不便は？

- ・ 複数の疾患を併せ持つことが多いので、複数の専門科の受診が必要
- ・ 近くの開業医＝かかりつけ医を持っていたとしても、その医師の得意分野がイマイチ不明
- ・ 結局は総合病院で複数科の主治医を持つことがありがち

この不便の対策は？

- ・ 1980年代から、諸外国では家庭医（Family Physician）と呼ばれる全般的な医療が可能な医師の育成を進めてきた
- ・ 日本でも、特に人口の高齢化が懸念されるようになった1970年代から総合的に診察できる医師の育成の必要性が検討されるようになってきた

「家庭医機能」10項目

- 1) 初診患者に十分対応できること
 - ― 疾病の初期段階に的確な対応ができること
 - ― 日常的にみられる疾患や外傷の治療を行う能力を身につけていること
 - ― 必要に応じ適切な医療機関に紹介すること
- 2) 健康相談および指導を十分行うこと
- 3) 医療の継続性を重視すること

「家庭医機能」続

- 4) 総合的・包括的医療を重視するとともに、医療福祉関係者チームの総合調整にあたること
- 5) これらの機能を果たすうえでの適切な技術の水準を維持していること
- 6) 患者を含めた地域住民との信頼関係を重視すること
- 7) 家庭など生活背景をを把握し、患者に全人的に対応すること

「家庭医機能」続

- 8) 診療についての説明を十分にすること
- 9) 必要な時いつでも連絡がとれること
- 10) 医療の地域性を重視すること

「総合診療」の歴史

1963年：「実地医家のための会」設立

1978年：日本プライマリ・ケア学会設立

1980年：厚生省「臨床研修指導医海外派遣制度」開始

1985年：厚生省「家庭医に関する懇談会」開始

2010年：関連3学会が合併し「日本プライマリ・ケア連合学会」設立

2014年：「日本専門医機構」設立

2018年：総合診療科の研修開始

実地医家のための会

- ・ 創設者：永井友二郎（当時40代半ばの東京の開業医）
- ・ 武見太郎（日本医師会会長）、梅澤彦太郎（日本医事新報社社長）が創設に協力
- ・ 1963年の創設から現在まで続いている

日本プライマリ・ケア学会

- ・ 「実地医家の会」の幹部がその創設に尽力
- ・ 東京の勉強会から全国区の学会に
- ・ 1980年代半ばと90年代初めに、「家庭医療学会」「総合診療医学会」が発足

臨床研修指導医海外派遣制度

- ・ 武見太郎と厚生省との折衝から発足
- ・ 当初は総勢百人規模の指導医を育てる予算を確約していた
- ・ 1977年からの米国臨床留学試験の難化で応募者が少数しか集まらず、規模縮小

家庭医に関する懇談会

- ・ 日本医師会の「家庭医制度」に対する猛反対で具体的成果を挙げることできず
- ・ 武見太郎の死去により、日医の方針が真逆に変更
- ・ 結局まとまったのは前述の家庭医機能10項目のみ

プライマリ・ケア連合学会

- ・ 2010年にプライマリ・ケア学会、家庭医療学会、総合診療医学会が合併
- ・ かなりの産みの苦しみあり
- ・ 合併までの4年間、木戸はプ学会副会長

「総合診療科」の将来

- ・ 現在全国で400近い研修プログラムの存在
- ・ 優秀な研修指導医の存在 (ex. NHKのドクターG)
- ・ 多くの真面目な医学生に総合診療志向が強い
- ・ これからも続く高齢化が総合診療医を欲している
- ・ 従って、将来は明るそう